

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	6人	算数	6人	理科	6人
第5学年	国語	7人	算数	7人	理科	7人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

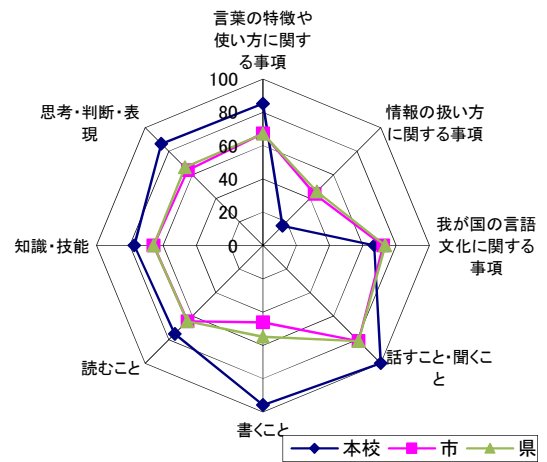
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	85.2	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	16.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	100.0	81.2	81.2
	書くこと	95.8	46.2	54.9
	読むこと	75.0	64.3	64.5
観点	知識・技能	77.3	65.7	65.7
	思考・判断・表現	86.5	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

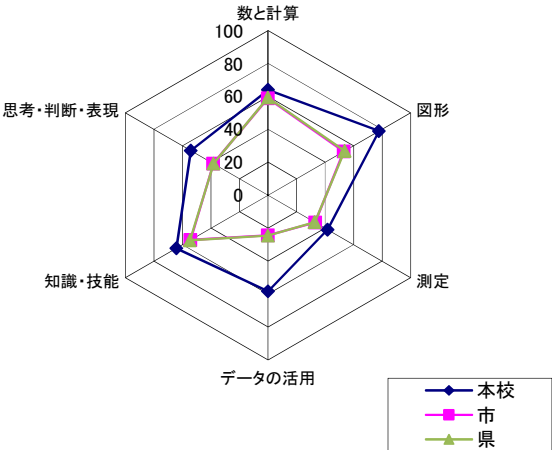
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は85.2%で、市の平均を上回った。 ○漢字の書き問題は3問とも市平均を上回った。昨年度課題となったローマ字で表記されたものを読む設問でも市の平均を上回った。 ●漢字の読み問題は「岸」のみ正答率が50.0%と市平均を16.2ポイント下回った。	・漢字の読み書き、語彙においては引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。また、漢字練習帳や自主学習において部首や画数に着目したり、熟語を使った例文を作ったりするなど、児童がアウトプットする方法を工夫する。国語科以外の学習活動においても、正しい言葉や漢字を使うよう教科横断的な指導の充実を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は16.7%で、市の平均を下回った。 ●国語辞典の使い方に関する設問は正答率が16.7%と県平均を27.1ポイント下回った。	・国語科だけでなく、他教科や朝の学習においての意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など、基本事項について正しく理解できるよう定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は66.7%で、市の平均を下回った。 ●漢字のへんやつくりに関する設問は正答率が66.7%と県平均を5.4ポイント下回った。	・漢字に対する興味や関心を高めることができるよう、成り立ちや意味について考えながら漢字を読んだり書いたりできるよう指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は100%で、市の平均を上回った。 ○4問すべての設問で正答率は100%と市の平均を上回った。	・互いの意見の共通点や相違点に着目して聞きながら、自分の意見をまとめ、理由を明らかにして述べるができるように、話し合い活動を充実させる。また、国語の学習で学んだことを生かして学級活動の話し合いが行えるようにするなど、意識して実践できる場を意図的に設ける。
書くこと	平均正答率は95.8%で、市の平均を上回った。 ○すべての設問で平均正答率は市の平均を上回った。4問中3問は正答率が100%で市の平均を40ポイント以上上回った。	・国語科を含め、各教科等で「自分の考えを書く」活動を積極的に取り入れ、書くことに抵抗なく取り組めるようになってきた。文章作成の際には、国語科の説明文で学習したことを想起させながら、つながり言葉の使い方や段落構成の作り方に慣れさせていくことで段落の役割を理解し、それらを活用する力を身に付ける指導の充実にも努める。
読むこと	平均正答率は75.0%で、市の平均を上回った。 ○昨年度課題となっていた情報と情報との関係を理解し中心となる語や文を見付け要約する設問の正答率は100%で、市の平均を38.4ポイント上回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうか問われる問題では50.0%と市の平均を2.4ポイント下回った。	・場面の移り変わりを捉えるために人物や場所、時間などに関するキーワードを見つけて、それを押さえながら文章を読み取る練習を重ねていく。また、引き続き読書の時間を積極的に設けることにより、日常的に文章の内容を読み取る練習をする。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.9	58.9	59.2
	図形	77.8	53.0	53.7
	測定	41.7	33.1	32.6
	データの活用	58.3	24.4	24.6
観点	知識・技能	64.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	54.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

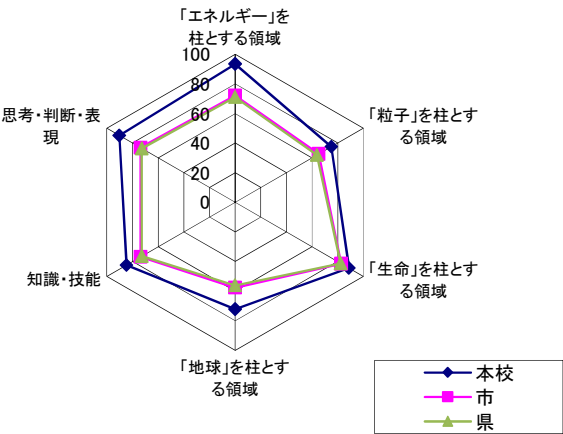
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、63.9%で市の平均を上回った。 ○2けた÷1けたのわり算の問題、数量の関係について口を使って正しく表された図を選ぶ問題の正答率が100%であった。 ●大きな数の表し方について選ぶ問題の正答率が低く、大きな数の表し方や構成の理解に課題が見られる。	・社会科の都道府県の人口や野菜の収穫量など既習事項や、児童にとって身近な数を提示し、大きな数の表し方について理解を深められるようにする。 ・10倍すると位が一桁上がる、100倍すると位が二桁上がるなど、十進位取り記数法を用いながら繰り返し学習し、10が10こで100、100が10こで1000などの既習事項を取り入れながら指導していく。
図形	平均正答率は77.8%で、市の平均を上回った。 ○円の性質を利用して正三角形を作図する問題や二等辺三角形になる図を選ぶ問題の正答率が高かった。それぞれの図形の性質を理解していることが分かる。	・円の性質やそれぞれの図形の性質をしっかりとおさえ、繰り返し作図に取り組ませたことが結果になったと考える。 ・今後もコンパスやものさし、三角定規などの使い方について丁寧に指導していく。
測定	平均正答率は41.7%で、市の平均を上回った。 ○はかりの目盛りを読み取り、差を答える問題の正答率は市の平均を大きく上回った。目盛りの読み方が身に付いていることが分かる。 ●重さが同じになる組み合わせを選ぶ問題の正答率が市の平均よりも低かった。重さの単位の理解に課題が見られる。	・g、kgなど重さの単位や1000g=1kgなどの単位変換について理解が深められるよう指導する。 ・□gのものが何個でどのくらいの重さになるかを求める問題では、文章をよく読み取り、読み取ったことを図や数直線に表しながら、重さの求め方の理解が深められるよう指導する。
データの活用	平均正答率は58.3%で、市の平均を上回った。 ○棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘する問題の正答率が市の平均を大きく上回った。棒グラフの値を正確に読み取る力が身に付いていることが分かる。	・問題をよく読み、1目盛りが表している数の大きさに注意しながら正確にグラフの読み取りを行えるよう指導する。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	93.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	75.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	88.9	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	72.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	84.7	73.8	72.8
	思考・判断・表現	90.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は93.3%で、市の平均を大きく上回った。 ○トライアングルの音の大きさと、たたく強さの関係をよく理解できている。	・体験的な活動を多く取り入れ、理科的な知識の基礎を増やすことで理科的な知識・技能への理解を深められるようにする。 ・様々な体験や実験から共通することを見つけ出したり、話し合ったりする活動を積極的に取り入れることで、理科の法則性や規則性に注目できるようにする。 ・自分の考えを発表したり、文章に表したりするなど、思考を言語化できるようにする機会を増やす。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は75%で、市の平均を上回った。 ○体積は同じでも、木・金属・プラスチック等物質によって重さが違うことをよく理解できている。 ●同じ物質で、広げたり、丸めたりするなど、形が変化しても重さは変わらないことに関する理解がやや低い傾向が見られる。	・体験や生活から疑問をもち、課題と結び付けられるようにするなど、児童が目的意識を持って実験や観察を行えるように授業改善に取り組む。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は88.9%で、市の平均を上回った。 ○観察記録を付けるにあたり、どのような点を記録したらよいかがよく身についている。また、昆虫の育ちや昆虫と他の虫の体の違いについてよく理解できている。 ●虫眼鏡の正しい使い方や植物の部位の名称等にやや課題が見られる。	
「地球」を柱とする領域	平均正答率は72.2%で、市の平均を上回った。 ○太陽の位置の反対に影ができることをよく理解しており、観察記録の取り方も正確に表現することができた。 ●方位磁針を使った太陽がある方角の調べ方の正答率が市平均は上回っているものの、他の回答より正答率がやや低い傾向が見られた。	

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(2)「家で、学校の宿題をしている。」、(5)「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」、(15)「学校の宿題は、自分のためになっている。」、(22)「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役立つと思う。」の肯定的回答は100%だった。学習することに意義を感じながら、家庭学習に取り組んでいる傾向が見られる。

○(23)「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」、(25)「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」、(33)「授業を集中して受けている。」、(36)「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができてい。」の肯定的回答は100%だった。授業は自分で意見を出すだけでなく、友達の話もよく聞きながら、積極的に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。

○(40)「学校の決まりを守っている。」、(42)「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」、(52)「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答は100%だった。学習だけでなく、学校生活の中で決まりや自分の役割を自覚しながら活動し、皆のために活躍していると感じている傾向が見られる。

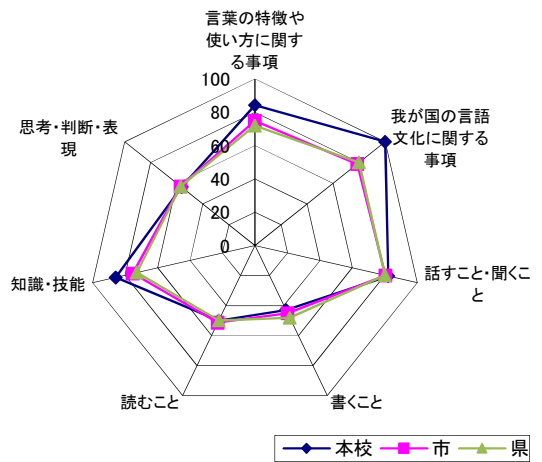
○(61)「しょう来のゆめや目標を持っている」、(63)「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」、(64)「自分は家族の大切は一員だと思う。」の肯定的回答は100%だった。家族とコミュニケーションを取りながら、充実した家庭生活を送っている傾向が見られる。

●(16)「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の本校の肯定的回答は66.7%・宇都宮市の肯定的回答の平均は84.2%、(21)「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」本校50%・市82%、(24)「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」本校50%・市72.5%と、市の平均より低かった。学習には真面目に取り組むものの、学習に対する興味がやや低い傾向が見られた。生活体験や児童がもつ知識等と、学習課題の共通点を探したり、学習することで自分が向上したと感じられたりするなど、児童がより主体的に学べるように授業改善に取り組んでいく必要がある。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	84.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	82.1	80.4	80.0
	書くこと	42.9	45.1	48.0
	読むこと	50.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	85.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	56.3	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

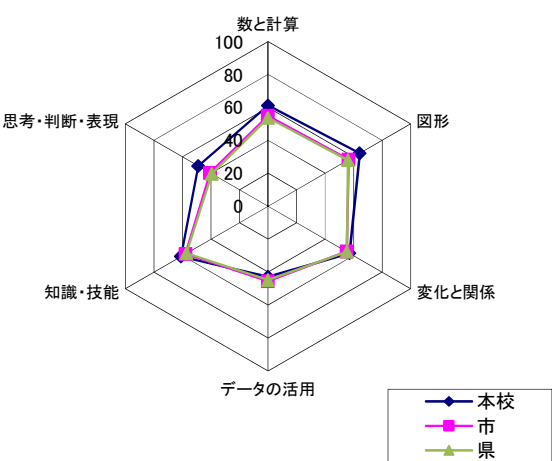
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は84.3%で、市の平均上回った。 ○漢字の読み問題は、3問とも市の正答率を上回った。 ●漢字の書き問題は、「勇ましい」の正答率が57.1%と、市の平均を8ポイント下回った。	・朝の学習や家庭学習等で基礎的な漢字の反復練習を行っていく。漢字の苦手な児童については、音読を含め、他教科にわたり漢字に触れる機会を増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は100%で、市の平均上回った。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかを見る設問は、市平均を21.4ポイント上回った。	・ことわざや慣用句の使い方については、日常生活や授業内で使う場面を取り入れ、児童が普段の生活で正しく使えるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は82.1%で、市の平均上回った。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうか問われる設問の正答率は100%で、市の正答率を35.5ポイント上回った。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうか問われる設問の正答率が42.9%で市の平均を40.7ポイント下回った。	・国語の授業だけでなく、学級活動など話し合いの場を多く設定し、友達と自分の考えを比べたり、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理したりして自分の考えをまとめられるように今後も指導を継続していく。
書くこと	平均正答率は42.9%で、市の平均下回った。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことの正答率は42.9%で市の平均を1.9ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書くことの正答率は42.9%で市の平均を10.7ポイント下回った。	・書いた文章を互いに読み合うなど、より伝わりやすく書くこととする意欲が高まる学習活動を意識的に取り入れることで、書くことに対する目的意識をもたせる。 ・根拠を明確にして自らの考えを表現する場を学習活動内に意識的に取り入れたり、作文用紙を使用して指定された条件の下、文章を書いたりすることで必要な内容を伝わりやすい構成を考えて書くことができるようにする。
読むこと	平均正答率は50.0%で、市の平均下回った。 ○文章を読んで分かったことや感じたことをを共有することができるかどうか問われる設問の正答率は85.7%で市の平均を10.4ポイント上回った。 ●叙述を基に、段落の内容を捉える設問の正答率は14.3%で、市の平均を17.2ポイント下回り、昨年同様課題が見られた。	・引き続き読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物の様子や場面の变化を丁寧に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れる。 ・説明文において、段落構成や筆者の考えを意識しながら、文章の内容を的確に読み取れるように学習活動を工夫する。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.2	54.9	53.7
	図形	64.3	56.6	56.1
	変化と関係	57.1	55.1	55.2
	データの活用	42.9	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.0	57.8	57.2
	思考・判断・表現	49.0	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

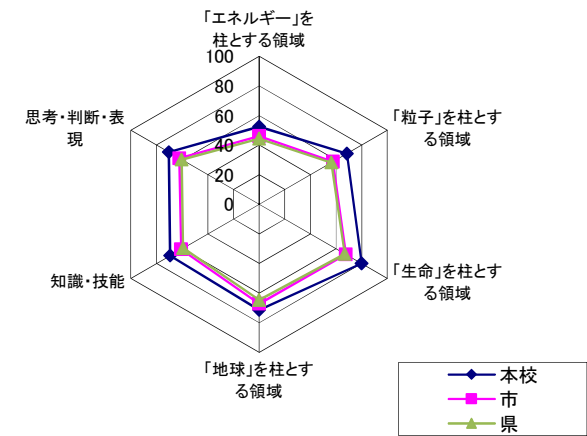
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は61.2%で、市の平均上回った。 ○複数の数直線上に表した分数について同じ大きさの分数の組み合わせを選ぶ問題、帯分数－真分数＝真分数の計算については、正答率が100%であった。 ●83兆は83億の何倍かを答える問題の正答率が0%であった。	・分数の理解、計算の仕方については引き続き、定着を図っていく。また、小数の大きさの比べ方や計算などに関しては繰り返し習熟を図っていく。 ・億を超えるような数の問題では、単位に注目させ、考えることができるようにしていく。 ・計算の仕方や求め方を考える場面などを通して、考えを言葉で説明する活動を大切にしていく。
図形	平均正答率は64.3%で、市の平均上回った。 ○直方体のある面に垂直な辺を選択する問題、平行四辺形を作図する問題に関しては、市の平均を大きく上回った。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題については、正答率が市の平均を下回った。	・立方体の辺と面の位置関係や展開図と立体の関係、作図など、理解できているところは、再確認し、理解を定着させる。 ・角度の問題に関しては、分度器の読み取り方を確認するとともに、三角形や四角形の角度について再確認し、工夫して求められるように指導していく。
変化と関係	平均正答率は57.1%で、市の平均を上回った。 ○表から伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題の正答率が市の平均よりも高かった。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率が市の平均より低かった。	・伴って変わる2つの数量関係を学ぶために、日常生活においても経験できる部分を授業で扱うなど、児童がより具体的にイメージできるように関連した内容を指導していく。
データの活用	平均正答率は42.9%で、市の平均下回った。 ○折れ線グラフを読み取る問題の正答率が市の平均よりも高かった。 ●二次元の表から分かることを選ぶ問題の正答率が市の平均より低かった。二次元の表の意味の理解に課題が見られる。	・二次元の表の数が何を表しているのかを調べる際には、縦と横をよく見て、丁寧に読み取っていくよう指導していく。 ・グラフや表を読み取ることに限っては、他教科の授業でもグラフ等を積極的に活用し、更に理解を深めていく。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	52.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	68.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	80.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	71.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	69.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	70.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は52.4%で、市の平均を上回った。 ○乾電池のつなぎ方によって電流の強さが変化する ことや電流には流れる向きがあることを理解し、 問題に適切に答えることができた。 ●様々な回路を比較し、違う回路でも電流の向きや 強さが同じになる場合があるなど、回路ごとの特 徴を読みとることに課題が見られた。	・単元の導入で体験的な活動を取り入れたり生活経験と 結び付けられるような話題を投げかけたりするなど、課題 と実生活を結び付けるようにすることで、児童が目的意識 や学びの意義を自覚して実験や観察を行えるように授業 改善に取り組む。 ・時間と場所・実験道具の数が許す限り、複数回実験を 行い経験を増やすことで、実験に見られる現象の特徴や 規則性に自ら気づいたり考えたりできるようにする。 ・身の回りの自然や植物に関して、自分の持っている知 識を言語化させるとともに、1年間継続して植物の様子を 観察させるなど、知識と観察の事実を掛け合わせるこ とで、理科学的な知識と見方を育てる。 ・自分の考えを発表したり、文章に表したりするなど、思 考を言語化できるようにする機会を増やす。 ・クラスでの意見交換やグループで考えをまとめる等、思 考を広めたり深めたりする活動を積極的に取り入れる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は68.6%で、市の平均を上回った。 ○とじこめた空気と水の性質の違いや温度により金属の 体積が変わることをよく理解できていた。 ●水が沸騰したときに出てくる泡は水蒸気であることはよ く理解できていたが、泡の正体が水蒸気であることを文章 で説明することに課題が見られた。また、エアコンの冷房 と暖房の場合の風の向きの違いなど、学んだことを実生 活に活かす問題についても課題が見られた。	
「生命」を柱とする領域	平均正答率は80.0%で、市の平均を上回った。 ○季節による植物の成長や様子の変化、人間の腕 を曲げたり伸ばしたりしたときの筋肉の動き方につ いてよく理解できていた。 ●イチヨウの木の春夏秋冬による変化についての 理解に課題が見られた。	
「地球」を柱とする領域	平均正答率は71.4%で、市の平均を上回った。 ○水の温度による状態の変化(固体・液体・気体) や水が高いところから低いところへ流れていくという 性質についてよく理解できていた。 ●学んだことを生かし、排水溝が回りの高さよりや や低くなっている理由を考えたり、星や月の動きに ついて考えたりする問題に課題が見られた。	

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(2)「家で、学校の宿題をしている。」(4)「家で、学校の授業の復習をしている。」(15)「学校の宿題は、自分のためになっている。」(22)「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中役に立つと思う。」の肯定的回答は100%だった。宿題に取り組む習慣が身についており、学習することに意義を感じながら家庭学習に取り組んでいる傾向が見られる。

○(12)「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の11冊以上の回答が本校57.1%、と市の平均を大きく上回った。読書をする習慣が身についている傾向が伺える。学校でも引き続き、朝の読書や読み聞かせを継続していくことで、読書に親しむ習慣を育てていきたい。

○(26)「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」(27)「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」(36)「友達と話し合うとき、友達の意見を最後まで聞くことができている。」の肯定的回答は100%だった。また、(35)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答は85.7%だった。授業では自分の考えを述べるだけでなく、友達の意見も聞きながら学習に取り組んでいる様子が伺える。

○(39)「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていと思う。」(42)「学校での役割や係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定的回答は100%だった。また、(41)「自分はクラスの人の役にたっていると思う。」の肯定的回答は85.7%だった。自分の与えられた役割に積極的に取り組み、自分がみなのために役だっていると実感できている傾向が見られる。

○(61)「家の人と学校のできごとについて話をしている。」(63)「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」(66)「家の人と学習について話をしている。」の肯定的回答は100%だった。家庭生活も充実している傾向が伺える。

○(52)「自分には、よいところがあると思う。」(53)「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している。」(54)「自分の行動や発言に自信をもっている。」の肯定的回答は100%だった。家庭や学校生活で充実した生活を過ごしており、自分自身に対して自信をもっている様子が伺える。

●(17)「勉強していて、不思議だな、なぜだろう、と感ずることがある。」の肯定的回答が本校71.5%、市の平均が85.4%と、市の平均より低い傾向が見られる。しかし、(18)「ぎ問や不思議に思ふことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答が本校85.7%、市の平均が68.3%、(20)「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」の肯定的回答が本校71.5%、市の平均が50.6%となっていることから、学習への意欲は高い傾向が見られる。日常生活の経験や身につけた知識に関連付けながら、授業の課題に対して問題意識や疑問をもてるよう、授業改善に取り組んでいく。

宇都宮市立平石中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「読み・書き」の基礎基本をしっかりと押さえ、語彙力を高める。 ・文や資料をていねいに読み、深く分析することを通して、自分の考えを明確にし、文章化することについて指導する。	・漢字の読み書きや語彙を増やす学習を繰り返して定着を図る。 ・視写を行い、文章としてのまとまりを意識して書き写すことにより、文章の書き方や文章の意味を考え理解する力を養う。 ・事実と自分の考え・資料と見聞きしたことを意図的に分けて文章を書くことで、自分の考えを明確にする力を育てる。	・言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、市の平均より上回った。 ・読むことの平均正答率は、5年生は市と同程度で、4年生は大きく上回った。 ・記述式の平均正答率は、5年生は市よりやや低く、4年生は大きく上回った。
・計算の力や算数のきまりなどの基礎基本をしっかりと押さえ、算数的な見方考え方を養う。 ・自分の考えを式、図、言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図る。	・計算や文章を読んで式に表す学習を繰り返して、基礎基本の定着を図る。 ・自分の考えを算数的な見方考え方を使い、図や表などを使って書き表す学習活動を積極的に行う。 ・実感を伴った理解につながるよう、めあての提示や学習活動の工夫に取り組む。	・知識・技能の平均正答率は、市より上回った。 ・記述式の平均正答率は、市より10%以上高かった。 ・「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」の肯定的回答は、5年生は市平均を上回り、4年生は下回った。